

2025 年度第 2 回神戸市外国人市民会議 議事要旨

地域協働局地域協働課

日時	2026 年 1 月 15 日 (木) 13:00 ~ 15:00	場所	神戸市役所 1 号館 24 階 1243 会議室
出席者	兵庫県立大学環境人間学部教授 乾美紀 在日本大韓国民団兵庫県地方本部副団長 李 宝 彰 学校法人兵庫朝鮮学園 理事長 金 錫 孝 神戸華僑総会事務局 副会長 王 政夫 Tabunko Kobe 代表 ウィリアムズ・アン・エリザベス 多文化共生ガーデン KOBE・ながた友の会 チャン・ミー・トゥアン マサヤンタハナン 副代表 川口フローラ 神戸大学大学院法学研究科研究助手 劉 子安 〔敬称略〕		
	地域協働局地域協働課 (事務局) ファシリテーター 2 名		
議事	(1) 第 1 回外国人市民会議の振り返り (2) 2026 年度以降の取組み (3) その他		

1. 開会

2. 議事

(1) 第 1 回外国人市民会議の振り返り

- ・ 前回挙げられた意見やアイデア
- ・ 「教育」に関して身の回りで困った出来事
- ・ 各委員が所属している団体として協力できそうなこと
- ・ これからの望む形
(事務局より資料に沿って説明)

(2) 2026 年度以降の取組み

●教育委員会事務局の取組み紹介

- ・ 母語による支援
- ・ 日本語指導
- ・ その他
(神戸市教育委員会事務局より資料に沿って説明。)

●意見交換 (委員からの主な意見)

【学校 (内) 外での外国ルーツの子どもを取り巻く現況】

- ・ 外国ルーツの子どもが自分のアイデンティティを表現し、悩みや辛さを安心して話せる場所が必要 (学校外だけでなく、学校内にもそのような場が必要)。
- ・ 進路について気軽に相談できる場が必要
- ・ 子どもの時から、多文化共生をいかに教えていくかが大切。
- ・ オールドカマーは母語の継承が課題となっており、ニューカマーは日本語習得が課題となるなど状況は異なるが、その根底にある悩みは共通している。
- ・ 子どもが自分のルーツやアイデンティティを肯定的に受け止められる環境づくり
- ・ 外国ルーツの子どもの来日理由は多様であり、どの子どもも自身のアイデンティティを築ける環境整備が求められる。

【解決したい課題】

- ・いじめの防止
- ・移民や外国ルーツの子どもへの偏見をなくすこと
- ・教育現場では、外国ルーツの子どもの背景やアイデンティティへの理解が不十分で、日本語指導だけに偏りがちである。いじめや差別を防ぐ視点を含め、より広い支援が必要。
- ・教員養成段階で外国ルーツの子どもへの理解を学ぶ機会が乏しく、教員個人の努力に任されている。

【サポート方法、解決方法】

- ・先生やクラスメイトが、外国ルーツの子どもについて学ぶ機会をつくる
- ・委員の所属する団体の中に、子どもが自分のアイデンティティを安心して話せる場所をつくる。
- ・委員の所属する団体が行っている（多文化）交流行事を日常的な取組に発展させる
- ・先生の育成段階で、多文化理解がある人を派遣し情報を共有する。

●まとめ

- ・外国ルーツの子どもの保護者は、仕事や生活で非常に多忙な状況にあり、そのなかで子どもが日本社会に適応するための支援が必要であることは、オールドカマー、ニューカマーの双方に共通している。
- ・行政や教育現場が、外国人保護者とその子どもに対してどのように情報を届けるかが課題であり、より効果的な方法が求められる。
- ・アイデンティティやいじめの問題は、昔から何度も繰り返されており、粘り強く取り組む必要がある。
- ・日本人と外国人住民の間には、まだ見えない「壁」があり、それをなくしていきたい。
- ・外国ルーツの子どもが安心して過ごせる「居場所」をつくることが大切。既存の取り組みを拡充する形でもよいので、学校内で多文化教育が体系的に位置づけられることが望ましい。
- ・外国ルーツの生徒の支援制度には手厚い側面がある一方、特別扱いが逆に差別につながる可能性もあり、その点への配慮が必要である。

(3) その他

高校生世代に向けた日本語教育プログラムについて
(事務局より資料に沿って説明)

以上